



昔、坂本さんに小さな献詞を書いたことがある。

創るということは 遊ぶこと

創るということは 狂うこと

創るということは 愛すること

創るということは 生きるということ

坂本さんと仕事をしていて その言葉がうかんだ。

倉本 聰

坂本さんにお目にかかっていると、突然、ある気合いに打たれることがあります。「自分の好きなことをして生きていくのだから、世間並みの仕合せなどむろん望みはしないし、いつどこでも野垂れ死にしてもかまわな い」という覚悟が、静かに、しかし強く伝わってくるのです。この気合い、この覚悟が、たとえば「土佐源氏」への凄烈なこだわり方にあらわれていることは申しあげるまでもありません。坂本さんのこの気合いや覚悟に、私などもよほど見習わなくてはなりません。

井上ひさし

一人芝居「土佐源氏」とは、山口県出身の民俗学者・宮本常一氏の著書「忘れられた日本人」に登場する盲目の老人、高知県壽原町で実際に聞き書きした馬喰（牛馬売買人）の一代記を、坂本長利さんが独演劇化したものです。

それは昭和42年、新宿にあったストリップ小屋の幕間狂言から始まりました。37歳でこの老人を演じてから43年、上演回数は1120回を超え、80歳となった坂本長利さん。

響和堂では、その日本演劇界の宝ともいえる役者の渾身のステージから“生(命そしてLIVE)の煌めき”をお届けします。



坂本長利
SAKAMOTO Nagatoshi

俳優。1929年10月14日、鳥根県出雲市生まれ。1951年、山本安英、岡倉士朗らが主宰する「ぶどうの会」に入団。1953年、木下順二作『風浪』で初舞台を踏み、さらに木下作『三年寝太郎』、宮本研作『明治の枢』などに出演した。1964年、「ぶどうの会」解散後の翌年、竹内敏晴、和泉二郎らと演劇集団「変身」を結成。東京・代々木の「代々木小劇場」を本拠地に小劇場運動の先駆けとなる

とともに、宮本研作『とべ、ここがサド島だ』『ザ・パイロット』、秋浜悟史作『冬眠まんざい』などの舞台に立った。1971年、「変身」解散後はフリーで映画などに出演。最近では、テレビの『Dr.コトー診療所』の村長役でおなじみだ。1967年の初演以来、出前芝居と称して一人芝居『土佐源氏』を日本各地をはじめ、ポーランド、スウェーデン、ドイツ、オランダ、ブラジル、ペルー、イギリス、韓国など海外公演も多数行う。1985年、紀伊國屋演劇賞特別賞、2000年、旅の文化賞を受賞。1996年1月、広島・因島公演で1000回を突破した。2009年6月の栃木・佐野公演で記念の1111回となった。同10月、山口・山陽小野田で80歳記念公演が開かれ、公演回数の記録を伸ばしている。

主な舞台

「明治の枢」「越前竹人形」「仮名手本ハムレット」「糸女」「ニンゲル」「リア王」「冬物語」

主なテレビ・映画

「北の国から」「喪服のランデヴー」「玩具の神様」「Dr.コトー診療所」「坂の上の雲」「えんがわの犬」「ラストシーン」「丹下左膳百万両の壺」

チケットのお申し込み

Ticket ¥3,900 (税込・全席自由)

響和堂ホームページ <http://kyowado.jp>

Faxによるお申し込み 03-3610-5740

Faxにてお申し込みの場合は、お名前・ご住所・ご連絡先電話番号・チケット枚数を明記の上、ご送信ください。お申し込み受付期間は9月13日(月)迄です。以降は電話にてお問い合わせください。未就学児童のご来場はご遠慮ください。

お問い合わせ Phone 080-4200-0808

e-mail info@kyowado.jp

会場：「座・高円寺2」

交通：JR中央総武線（東京メトロ東西線乗入）「高円寺駅」北口より徒歩5分
東京都杉並区高円寺北2-1-2 <http://za-koenji.jp/>

